

[授業研究班]

「自己点検・自己評価」に関する研究

——自己評価から相互評価へ——

(2003年度「文学部学生による授業評価アンケート」の事例)

森 正 明
布 目 靖 則

はじめに

大学教育を取り巻く環境は1991年の設置基準の見直し（以下、大綱化）以降大きく変化してきている。

とりわけ大学教員を取り巻く環境という点では研究評価と同様の観点で教育評価も問題にされるようになってきた。

教育評価については、自己点検・自己評価とのかかわりで授業改善を実施していくことが必要になってきた。そのひとつの手段として「学生による授業評価」を実施し授業改善に取り組むことが重要になってきている。

「学生による授業評価」については、大綱化以降大学基準協会の「大学評価」項目のひとつにあげられているが、大学教育の現場には積極的に取り入れられているとはいえない現状である。その理由のひとつに学生が授業を客観的に評価できるのかどうか疑問であるという意見がある。たしかに授業の出席率等の個人差を判断して授業評価結果をみることは困難である。しかしながら学生の能力育成のひとつとして、授業を評価させることも大学の授業に課せられた課題であるということができる。

そして何よりも授業の担当教員が授業改善に役立てる資料となることが第一義的なことであるという前提に立てば、「学生による授業評価アンケート」は有効な基礎資料となる。

目 的

このような状況の中で、2003年度文学部では専任教員の希望者（48名）を募って「学生による授業評価アンケート」（資料-1）を実施した。その中で「体育講義（健康・スポーツ科学）」2名の担当者のアンケート結果を各々が自己評価を行い、さらにその自己評価結果を相互に評価するという方法で検討し、よりよい授業改善につながる資料とすることを目的にした。

手 続 き

手続きとしては、この問題に関して先駆的に取り組んでいる研究グループ（代表奈良雅之）が実施している「相互評価」の方法を参考にした。

今回の方法は、まず前期授業最終週に実施した「授業評価アンケート」結果について各項目ごとに数値（度数分布）を中心にした自己評価を行い、自由記述については、〈良かった点〉、〈不満、改善点〉という枠組みで整理し、実数の多かった5項目を中心に自己評価をした。

次にこれらの自己評価結果をお互いに「相互評価」する作業を行った。（Ⅲ、Ⅶのフォームによる）

さらに「相互評価」結果を授業担当者に渡して、再度総合的な「事後評価」を行った。（Ⅳ、Ⅷのフォームによる）

<調査票について>

この「学生による授業評価」アンケートは、文学部授業評価委員会が作成したものであり、16項目の設問で構成されている。その内容は、学生自身の授業への取り組み度に関する設問（4項目）、教員の授業の進め方や資料の内容に関する設問（4項目）、授業の成果に関する設問（3項目）、全体的な満足度（1項目）である。さらにこの他に、自由記述欄を設け上記設問には反映されにくい感想や意見を拾いあげている。

結 果 と 考 察

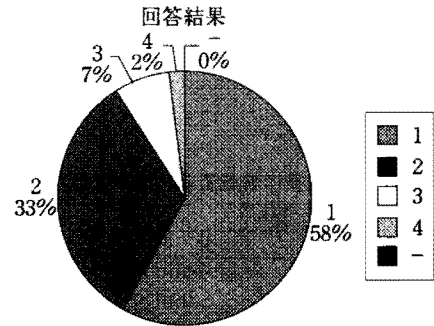
上記手続きにそってⅠA（クラス）のアンケート結果、ⅡA（クラス）の自己評価、Ⅲ相互評価（B→A）、ⅣA（クラス）の事後評価、ⅤB（クラス）のアンケート結果、ⅥB（クラス）の自己評価、Ⅶ相互評価（A→B）、ⅧB（クラス）の事後評価を行った。

I A (クラス) のアンケート結果

調査対象は、月曜の1年次（再履修を含む）3クラス，274名である。

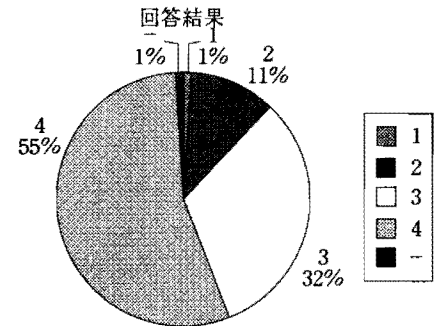
問1 あなたはこの授業にどのくらい出席していましたか。

データの個数：問1		回答内容	
問1	計	1	2
1	157	1	2
2	91	2	3
3	20	3	4
4	5	4	*
-	1	-	-
総計	274		



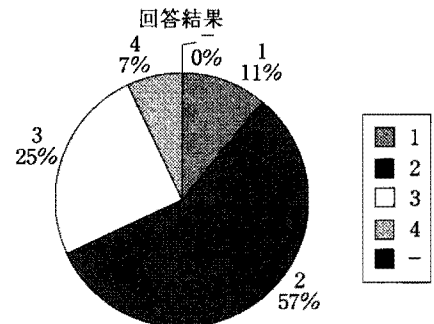
問2 あなたはこの授業の予習・復習等，必要な準備をしましたか。

データの個数：問2		回答内容	
問2	計	1	2
1	3	1 <td>2</td>	2
2	31	2 <td>3</td>	3
3	89	3 <td>4</td>	4
4	149	4	*
-	2	-	-
総計	274		



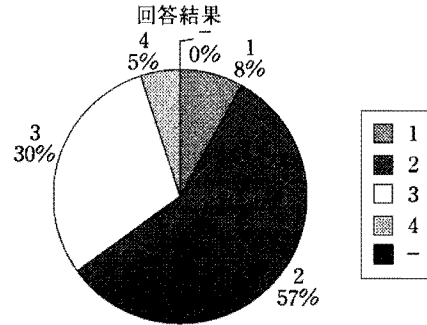
問3 あなたはこの授業の内容をよく理解できましたか。

データの個数：問3		回答内容	
問3	計	1	2
1	31	1 <td>2</td>	2
2	154	2 <td>3</td>	3
3	69	3 <td>4</td>	4
4	19	4	*
-	1	-	-
総計	274		



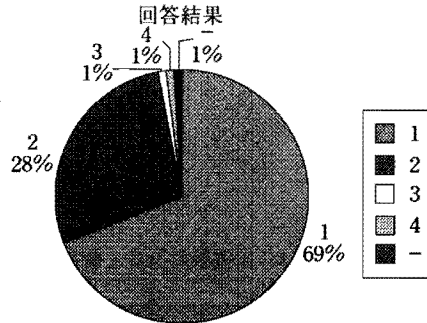
問4 あなた自身でこの授業の取り組みについて自己採点すると。

データーの個数：問4		回答内容	
問4	計	1	2
1	21	2	3
2	156	3	4
3	81	4	*
4	15	-	-
-	1	-	-
総計	274	-	-



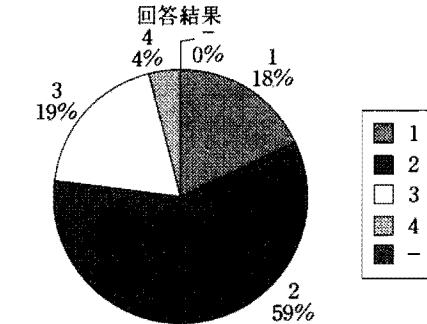
問5 この授業は講義要項にそって進行していましたか。

データーの個数：問5		回答内容	
問5	計	1	2
1	186	2	3
2	78	3	4
3	4	4	*
4	2	-	-
-	3	-	-
*	1	-	-
総計	274	-	-



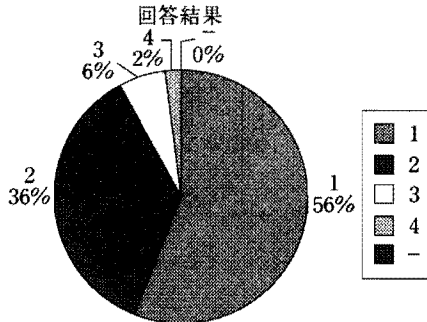
問6 この授業は理解が深まるよう工夫されていましたか。

データーの個数：問6		回答内容	
問6	計	1	2
1	50	2	3
2	160	3	4
3	52	4	*
4	11	-	-
-	1	-	-
総計	274	-	-



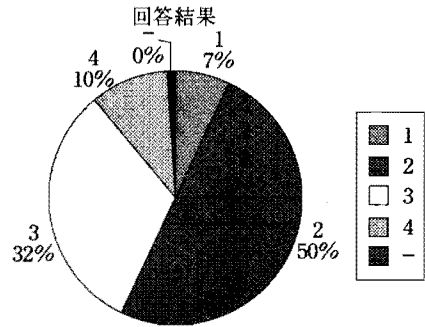
問7 この授業の開始・終了時間は守られていましたか。

データーの個数：問7		回答内容	
問7	計	1	2
1	153	2	3
2	99	3	4
3	16	4	*
4	5	-	-
-	1	-	-
総計	274	-	-



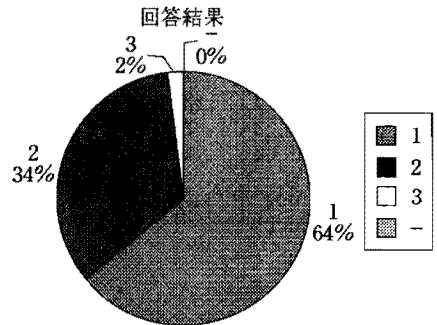
問8 この授業のテキスト・配付資料は役に立ちましたか。

データ-個数：問8		回答内容	
問8	計	1	2
1	18	2	50%
2	137	3	32%
3	87	4	10%
4	28	*	複数回答のため入力不可
-	4	-	未回答
総計	274		



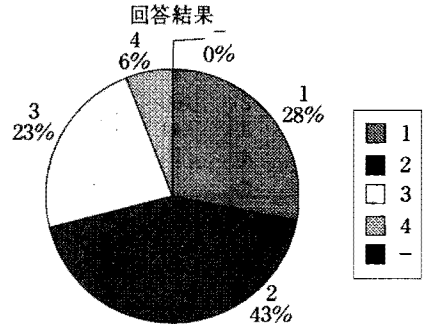
問9 教員の授業への取り組みは熱心でしたか。

データ-個数：問9		回答内容	
問9	計	1	2
1	174	1	64%
2	93	2	34%
3	6	3	2%
4	1	*	複数回答のため入力不可
-	1	-	未回答
総計	274		



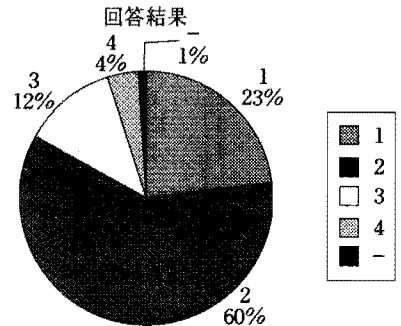
問10 教員の話し方は聞きやすかったですか。

データ-個数：問10		回答内容	
問10	計	1	2
1	77	1	28%
2	115	2	43%
3	64	3	23%
4	17	4	6%
-	1	*	複数回答のため入力不可
総計	274		



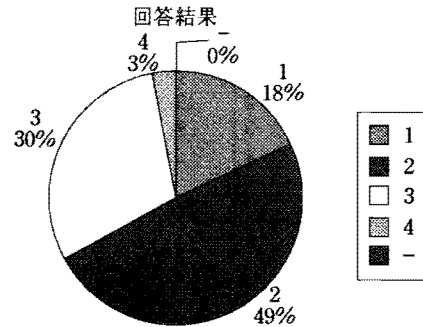
問11 学生からの質問や疑問への対応は適切でしたか。

データ-個数：問11		回答内容	
問11	計	1	2
1	64	1	23%
2	163	2	60%
3	32	3	12%
4	12	4	4%
-	3	*	複数回答のため入力不可
総計	274		



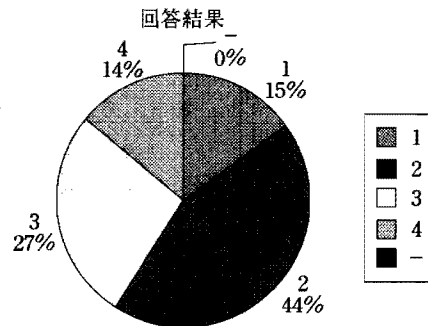
問12 板書, OHP, パソコン画面などはわかりやすかったですか。

データーの個数: 問12		回答内容	
問12	計	1	2
		1	48
		2	137
		3	81
		4	7
		*	1
総計	274	-	



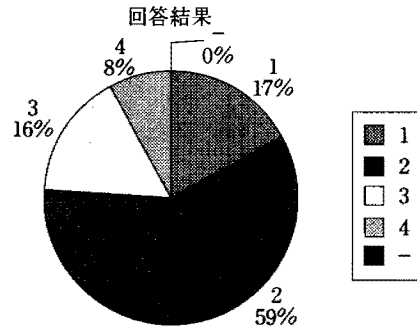
問13 この授業に興味を持ちましたか。

データーの個数: 問13		回答内容	
問13	計	1	2
		1	40
		2	120
		3	74
		4	39
		*	1
総計	274	-	



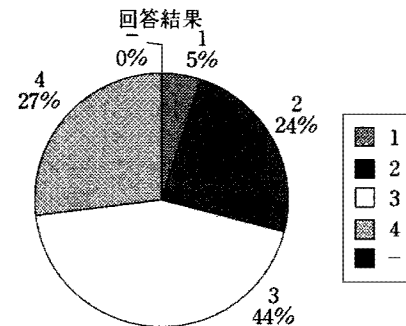
問14 この授業で新しい知識・技能の修得, 新しい経験ができましたか。

データーの個数: 問14		回答内容	
問14	計	1	2
		1	47
		2	160
		3	44
		4	22
		*	1
総計	274	-	



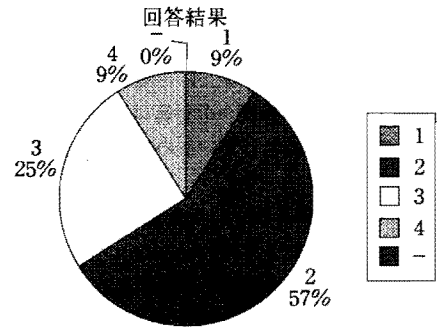
問15 この授業はあなたの将来の進路を考えるのに役立ちましたか。

データーの個数: 問15		回答内容	
問15	計	1	2
		1	14
		2	65
		3	121
		4	73
		*	1
総計	274	-	



問16 全体としての満足度は。

データの個数：問16		回答内容	
問16	計	1	たいへん満足
	1	25	2
	2	155	3
	3	69	4
	4	24	*
	-	1	-
総計	274		



II A (クラス) の自己評価

1. 数値データ（度数分布）から

問1. 出席率

原則2欠までを評価の対象にしているといっているので91%の出席率は、当然の結果である。

欠席した際には理由の如何にかかわらず体育共同研究室での補習を認め、授業実施後2週間後のレポート提出を認めている。

問2. 予習・復習

予習・復習については55%が「全くしなかった」と回答しているので、事前に渡しているシラバスにそって、授業1週前に具体的な課題を出しておくなどの工夫が必要である。

問3. 授業内容の理解度

1と2が68%でまずまずの結果であると評価できるが、3「あまり理解できなかった」学生が69名（25%）もいる点を考慮し、次年度は工夫が必要。

問4. 授業の取り組みについての自己採点

学生自身の自己採点は合格点に達しているようであるが、3「あまりよくない」が30%いるのでこのモチベーションをあげる工夫が必要。

問5. 講義要項にそっていたか

授業の予定についてはシラバスどおりであったので、9名（3%）の学生の認識がずれている。

問6. 理解が深まるよう工夫されていたか

1と2が77%で「工夫された授業内容である」といえるが、20%の否定的な意見もでているので自由記述項目を参考にしたい。

問7. 開始・終了時間は守られていたか

1と2で92%の評価である。（開始時間は100%定刻始り。）3.4については、ショートレポートを書く時間が足りない学生からの意見と考えられる。

問8. テキスト・配付資料は役に立ったか

57%の学生には役立ったが、42%の学生には役立っていないという評価なので、配付資料そのものの見直しが必要。

問9. 教員の授業への取り組みは熱心だったか

98%の学生が熱心であると評価している。全力投球しているので当然の結果であるが熱をいれすぎていることに異論を唱えている学生が2%（6名）いたと考えられる。

問10. 教員の話し方は聞きやすかったか

71%は「聞きやすかった」と評価しているが29%も「聞きやすくない」という結果なので自由記述説明がはやすぎる」に留意すべきである。

問11. 質問や疑問への対応は適切だったか

83%が適切としているので大きな問題はないが、16%については自由記述等を参考にして改善していきたい。

問12. OHP・パソコン画面はわかりやすかったか

67%は「わかりやすかった」と評価しているが、こと「板書」については自由記述項目のワースト2位であるので改善の必要がある。

問13. この授業に興味を持ったか

約60%の学生が興味を持てたにも関わらず、113名(41%)の学生が「興味を持てなかった。」と解答している。

13回の授業内容を次年度に向けて再検討したい。

たとえば1回ごとに完結しているテーマを2,3回のシリーズにする等を考えたい。

問14. 知識・技能の習得、新しい体験ができたか

「あたらしい知識の習得ができた。」と76%の学生が評価しているが、問13の「興味を持てなかった」学生とどのようにクロスしているかというデータがほしい。

問15. 将来の進路を考えるのに役に立ったか

スポーツ社会学をベースにテーマを設定しているこの授業では当然の結果であるが、この教科目は多様な領域(政治、経済や教育等)との関係を理解する第1段階の役割を担っているので、今後さらなる改善が必要。

問16. 全体としての満足度

授業全体の雰囲気や実施方法に対して約7割の学生が満足していると考ええる。

問13の「興味を持つ」視点からは、各回のテーマ設定や問題提起等をさらに工夫していく必要がある。

2. 自由記述のおもなもの ()内は実数.

<良かった点>

<不満,改善点>

- | | | | |
|-------------------|------|----------------------|------|
| 1. ビデオ教材等工夫されていた. | (31) | 1. 理解しづらかった. | (24) |
| 2. てても授業に熱心であった. | (16) | 2. 板書がみづらかった | (10) |
| 3. 視野をひろげるのに役立った | (12) | 3. 興味がわかなかった | (4) |
| 3. 楽しくかつわかりやすかった | (12) | 3. 必修の意味が理解できなかった | (4) |
| 5. 毎回のショートレポートが | | 3. 毎回のショートレポートを書く時間が | |
| よかった. | (4) | もっとほしかった. | (4) |

その他:2,3件ではあるが誹謗・中傷のたぐいの意見が書かれているものがあるが、授業改善にはほとんど役立たなかった。

3. 数値データ(度数分布)と自由記述からの感想(全体)

全体として好意的に評価されているといえる。

しかしながら数値データに現れない内容が自由記述には書かれているので、問8,問13,問15についてはここでの具体的な指摘を参考に、次年度すぐに改善できるものについては改善に取り組みたい。

Ⅲ 相互評価（B→A）

相互評価（B→A）

1. 自己点検・評価内容の特徴

- ・評価項目の全体に渡り、詳細に自己点検がなされている。
- ・こうした自己点検を受け、いくつかの改善案が具体的に提示されており、評価実施後のアフターケアとして評価できる。
- ・以上のことから、本評価が授業改善において有効に資するであろうことが理解できる。
- ・また、各項目間のクロス集計の必要性についても言及されており、今後さらに詳細かつ信頼度の高い分析がなされるであろうことが期待できる。

2. 優れている点

- ・学生の「出席率が非常に高く」、かつ「欠席者に対して補講を行う」システムを整えていること。
- ・「シラバス通り」に授業進行していること。
- ・「ビデオ教材」等を活用し「わかりやすい」授業を行っていること。
- ・教員が「熱心である」と評価されていること。
- ・スポーツ社会学をベースに「新しい知識の習得ができるよう」に工夫していること。

3. 今後期待される点

- ・出席率が高いが、「授業への取り組みが芳しくない学生」の処遇。
- ・ショートレポートは学生から一定の評価を得ていると考えられるが、「ショートレポート作成の為の適切な時間を確保」する努力。
- ・一部の学生からは、「話し方」や「板書」に関する不満もあることから、このことに関するさらなる工夫。
- ・「役立つ」観点からの配布資料の見直し。
- ・必修科目なので仕方ない面もあるが、より「興味を持てる」授業内容を検討すること。

4. 助 言

学生からの評価は良好であると思いましたが、ただ、少数ながら一部の学生は「興味を持たなかった」と回答していますので、授業内容に関するリニューアルが必要かもしれません。

シラバスを拝見しているとスポーツ社会学系の授業内容が多いようですので、健康学系等の他領域のテーマも取り入れた方が良く感じました。

5. そ の 他

特にありません。

IV 事後評価 (Aクラス)

事後評価 (Aクラス)

1. 自己点検・評価内容の特徴についてのコメント

「学生による授業評価」は、授業改善に役立てるということが第一義であると考えているので、次年度の授業改善に生かすという視点で評価を行った。

数値データと自由記述の両方のデータを有効に利用していきたい。

2. 優れている点についてのコメント

相互評価で指摘された「学生の出席率」については、平常点評価（課題レポートを含む）をしていることによる結果だと考えている。

欠席した際の補習については、対象者の6割程度が事後にレポートを提出しているが今後、さらに補習に取り組みやすい体制づくりが必要である。

「シラバス」どおりの授業進行や「ビデオ教材の有効利用」などは、授業効果をあげるために必要な要素であると感じている。

授業の雰囲気づくりは、まず教員がつくるものという点で「教員の熱意」は重要である。

3. 今後期待される点についてのコメント

「授業への取り組みを積極的に」、「役立つ観点からの資料の見直し」、「話し方」や「板書の工夫」等についてはご指摘のとおりである。

自己評価の際にいくつかの項目で述べたように次年度に改善できる点については、シラバスに反映させたい。

4. 助言についてのコメント

「興味をもてない学生」のみならず授業効果をあげるという観点からは、授業内容の検討は逐次行う必要があると考えている。

「健康学分野」等他領域のテーマを授業に取り入れることなどを検討したい。

5. その他に対するコメント

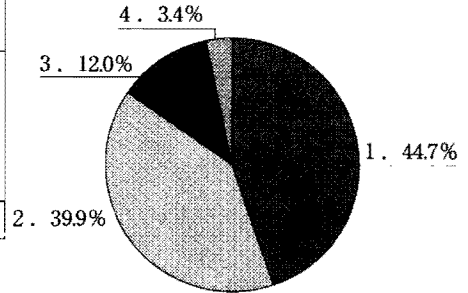
なし。

V B（クラス）のアンケート結果

調査対象は月曜日、金曜日の1年次（再履修者を含む）4クラス、358名である。

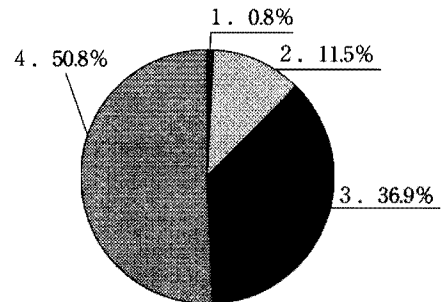
問1 出席率

	度 数	パーセント
1. 全て出席した	160	44.7
2. 1～2回欠席した	143	39.9
3. 3～4回欠席した	43	12.0
4. 5回以上欠席した	12	3.4
合 計	358	100.0



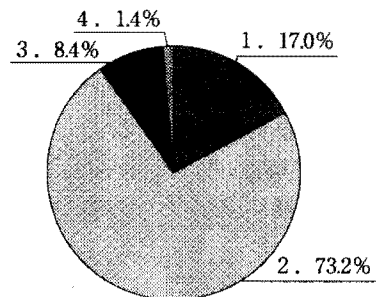
問2 予習・復習

	度 数	パーセント
1. 充分した	3	0.8
2. まあまあした	41	11.5
3. あまりしなかった	132	36.9
4. 全くしなかった	182	50.8
合 計	358	100.0



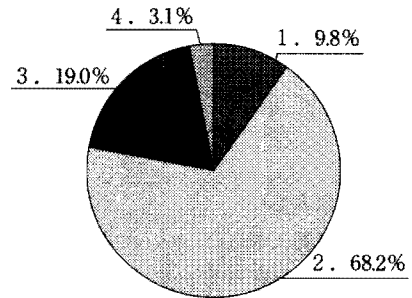
問3 授業内容の理解度

	度 数	パーセント
1. たいへんよく理解できた	61	17.0
2. まあまあ理解できた	262	73.2
3. あまり理解できなかった	30	8.4
4. 全く理解できなかった	5	1.4
合 計	358	100.0



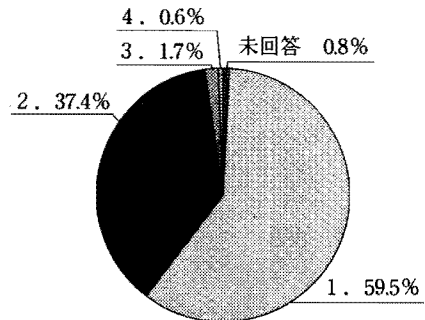
問4 授業の取り組みについての自己採点

	度 数	パーセント
1. たいへんよい	35	9.8
2. まあまあよい	244	68.2
3. あまりよくない	68	19.0
4. 全くよくない	11	3.1
合 計	358	100.0



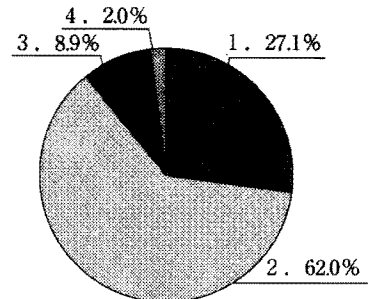
問5 講義要項にそっていたか

	度 数	パーセント
未 回 答	3	0.8
1. ほとんどそっていた	213	59.5
2. だいたいそっていた	134	37.4
3. あまりそっていなかった	6	1.7
4. 全くそっていなかった	2	0.6
合 計	358	100.0



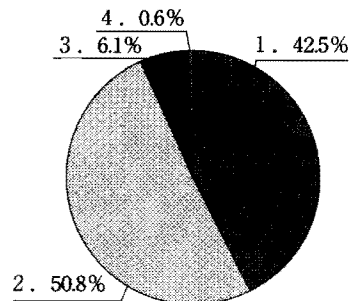
問6 理解が深まるよう工夫されていたか

	度 数	パーセント
1. たいへんよく工夫されていた	97	27.1
2. まあまあ工夫されていた	222	62.0
3. あまり工夫されていなかった	32	8.9
4. 全く工夫されていなかった	7	2.0
合 計	358	100.0



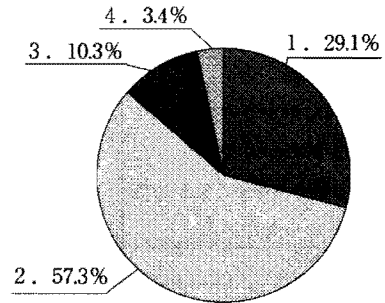
問7 開始・終了時間は守られていたか

	度 数	パーセント
1. 毎回時間通り守られていた	152	42.5
2. だいたい時間通り守られていた	182	50.8
3. あまり時間通り守られていなかった	22	6.1
4. 全く時間通り守られていなかった	2	0.6
合 計	358	100.0



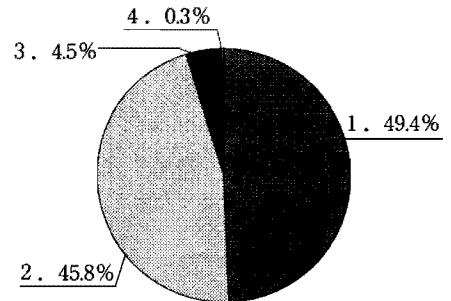
問8 テキスト・配付資料は役に立ちましたか

	度 数	パーセント
1. たいへん役に立った	104	29.1
2. まあまあ役に立った	205	57.3
3. あまり役に立たなかった	37	10.3
4. 全く役に立たなかった	12	3.4
合 計	358	100.0



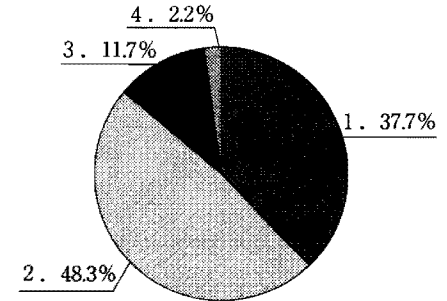
問9 教員の授業への取り組みは熱心だったか

	度 数	パーセント
1. たいへん役に立った	177	49.4
2. まあまあ役に立った	164	45.8
3. あまり役に立たなかった	16	4.5
4. 全く役に立たなかった	1	0.3
合 計	358	100.0



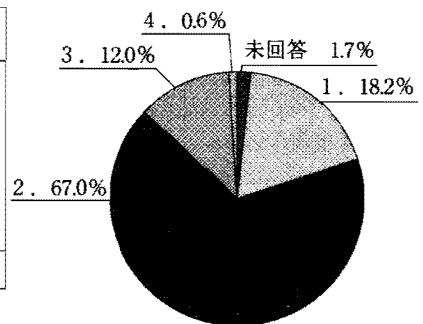
問10 教員の話し方は聞きやすかったか

	度 数	パーセント
1. たいへん聞きやすかった	135	37.7
2. まあまあ聞きやすかった	173	48.3
3. あまり聞きやすくなかった	42	11.7
4. 全く聞きにくかった	8	2.2
合 計	358	100.0



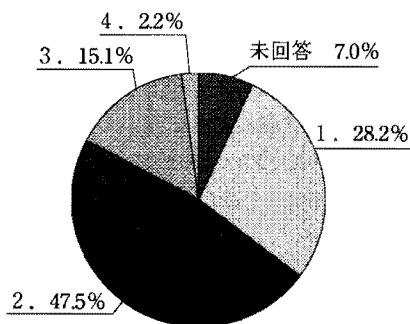
問11 質問や疑問への対応は適切でしたか

	度 数	パーセント
未 回 答	6	1.7
1. たいへん適切	65	18.2
2. まあまあ適切	240	67.0
3. あまり適切でなかった	43	12.0
4. 全く不適切	4	1.1
合 計	358	100.0



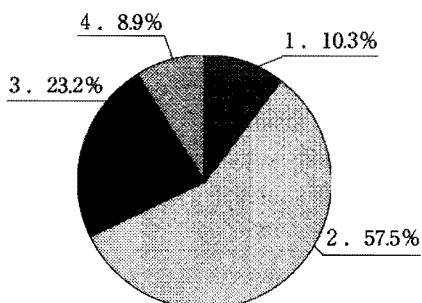
問12 板書・OHP・パソコンの画面はわかりやすかったか

	度 数	パーセント
未 回 答	25	7.0
1. たいへんわかりやすかった	101	28.2
2. まあまあわかりやすかった	170	47.5
3. あまりわかりやすくなかった	54	15.1
4. 全くわからなかった	8	2.2
合 計	358	100.0



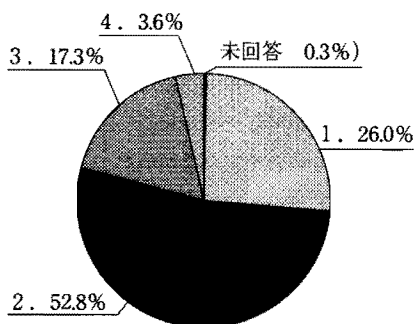
問13 この授業に興味を持ちましたか

	度 数	パーセント
1. たいへん興味を持った	37	10.3
2. まあまあ興味を持った	206	57.5
3. あまり興味を持たなかった	83	23.2
4. 全く興味を持たなかった	32	8.9
合 計	358	100.0



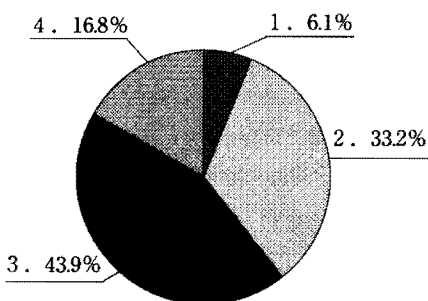
問14 新しい知識・技能の修得, 新しい体験ができたか

	度 数	パーセント
未 回 答	1	0.3
1. 十分できた	93	26.0
2. まあまあできた	189	52.8
3. あまりできなかった	62	17.3
4. 全くできなかった	13	3.6
合 計	358	100.0



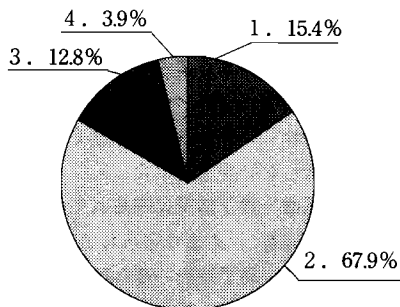
問15 将来の進路を考えるのに役立ったか

	度 数	パーセント
1. たいへん役立った	22	6.1
2. まあまあ役立った	119	33.2
3. あまり役立たなかった	157	43.9
4. 全く役立たなかった	60	16.8
合 計	358	100.0



問16 全体としての満足度

	度 数	パーセント
1. たいへん満足	55	15.4
2. まあまあ満足	243	67.9
3. あまり満足できない	46	12.8
4. 全く満足できない	14	3.9
合 計	358	100.0



VI B (クラス) 自己評価

1. アンケート結果（度数分布）について

問1. 出席率について

1回も欠席しなかった学生は45%，1～2回欠席は40%，3回以上欠席した者は15%に過ぎない。したがって、概ね良好な結果と言えよう。本授業の評価方法は、毎授業ごとの小レポート60%，期末評価40%である。この評価方法については、講義要項に記載し、かつ初回の授業において口頭でも説明している。授業に出席し小レポートを提出することが、評価の中で多くのウエイトを占めることから、このような結果になったと推察される。

遅刻については、今回の授業評価では調査をしていないが、1時限目の授業において他の時限に比べ若干多い傾向にある、と感じる。この点について、今後より厳しい指導をすべき必要を感じている。

問2. 予習・復習について

全くしなかった者が51%であり、今後何らかの工夫が必要となりそうだ。宿題（予習）としてのレポートは、半期の授業期間中に1回しか課していないため、もう少し回数を増やしたい。

問3. 授業内容の理解度について

肯定的回答（「たいへんよく理解できた」、「まあまあ理解できた」）が90%であり、概ね良好な結果と言える。視聴覚教材（VTR）の提示、資料（紙）の配布等をほぼ毎回行っているが、今後さらにパソコン画面（プレゼンテーション・ソフト）を活用する等の工夫を行いたい。

また、自由記述欄に「専門用語（外来語）について、その意味をきちんと教えて欲しい」（1件）との意見があったので、できるだけ詳しく説明する努力をしたい。

問4. 授業の取り組みについての自己採点、について

肯定的回答（「たいへんよい」、「まあまあ」）は78%。一方、否定的回答（「あまりよくない」、「全く」）は22%。毎回提出してもらっている小レポートに対して個別の返信をするなどして、学生の「やる気」を高める努力をしたいが、履修人数が多いためなかなか実現できないのが現状である。個別返信のかわりに、別紙添付のような資料（資料-2）を作成し、学生同士で刺激しあう工夫をしているが、さらに工夫を行いたい。

問5. 講義要項にそっていたか、について

講義要項に記載した「授業計画」通りに授業を進めた。しかし、「あまりそっていなかった」、「全

くく」と解答した者がごく少数ながら存在する(2%)。これは、教員の努力や工夫とは別次元の範囲の問題であると考ええる。

問6. 理解が深まるよう工夫されていたか、について

肯定的回答(「たいへんよく工夫されていた」,「まあまあくく」)は89%。一方、否定的回答(「あまり工夫されていなかった」,「全くくく」)は11%。自由記述欄を見ると、視聴覚教材(VTR)及び配布資料(紙)が好評であった。

問7. 開始・終了時間は守られていたか、について

否定的回答(「あまり守られていない」,「全くくく」)が7%であった。開始時間の遅れは資料配布の手間どりに、終了時間の遅れは小レポートの記入時間が十分に確保されていないことに、その理由があると考えられる。特に、終了時間については、小レポートの記入時間を十分に確保するように改善したい。

問8. テキスト・配布資料は役に立ったか、について

本授業ではテキストを使用していない。したがって、本設問に対する回答は、配布資料についてのものであると考えられる。「あまり役立たない」との回答が10%だった。

配布資料について、自由記述欄では「わかりやすかった」(8件)との評価を得ているが、さらに工夫が必要と思われる。特に期末評価との関連で有用な資料づくりを心掛ける必要があるかも知れない。

問9. 教員の授業への取り組みは熱心だったか、について

肯定的回答(「たいへん熱心」,「まあまあくく」)が95%であり、良好と言える。自由記述欄に「遅刻者や携帯電話(メール)使用者に対する注意が厳しすぎる」(8件)との意見も散見されることから、注意の仕方には気をつけたい。

問10. 教員の話し方は聞きやすかったか、について

肯定的回答(「たいへん聞きやすかった」,「まあまあくく」)が86%であり、概ね良好と言える。自由記述欄では、「聞き取りやすい」(3件)という記述がある一方で「聞き取りにくい」(3件)という意見もあり、中央値がつかみづらい。本人は、NHKラジオのアナウンサーの話し方を参考にしている(授業日には必ず出勤中にカーラジオでNHKを視聴)。声の大きさ、テンポ、リズムとともに、「語尾まではっきり発音する」ように改善したい。

問11. 質問や疑問への対応は適切だったか、について

「あまり適切でない」が12%であり、やや気にかかる。授業中に質問された記憶がないので、「質問をする『機会がない』こと」に対する不満かもしれない。授業時間内にこうした機会を設けるように改善したい。

問12. 板書・OHP・パソコン画面はわかりやすかったか、について

OHPとパソコンは使用していない。板書は、配布資料を補足する時にごくたまに行う。したがって回答は、板書に関してのものと思われる。否定的回答(「あまりわかりやすくない」,「全くわからなかった」)が17%で、やや高率であることから、改善したい。

問13. この授業に興味を持ちましたか、について

否定的回答(「あまり興味を持たなかった」,「全くくく」)が32%であり、やや高率である。自由記述欄に「授業自体は悪くないが、スポーツ問題にはあまり興味がわかなかった」(1件)、「必修である必要がない」(2件)などの意見が見られた。文学部の専門領域をできる限り加味して授業内容を組んでいるが、今後はさらに「教育学分野」や「健康学分野」をより多く加えていくよう改善したい。

問14. 新しい知識・技能の獲得、新しい体験ができたか、について

講義内容のほとんどは高校までの教育課程にないものであるが、否定的回答(「あまりできなかつ

た]、「全く」)を示した者が21%であった。最新の時事問題を取り上げるなどの改善をしたい。

問15. 将来の進路を考えるのに役立ったか、について

全設問中、最も悪い評価となった。否定的回答(「あまり役立たない」,「全く」)が62%である。多くの文学部生にとって、スポーツ科学は就職と直結するものでないので、やむを得ない。

問16. 全体としての満足度について

肯定的回答(「たいへん満足」,「まあまあ」)83%であり、概ね良好と言える。

2. 自由記述について

=良かった点= ()内は実数

<授業内容に関するもの>

- ・今まで知らなかった,新しい知見を得た (26)
- ・スポーツを様々な視点から多面的に理解できるようになった (18)
- ・「グループディスカッション」の回が良かった (13)
- ・「映画から読み解くスポーツ問題」の回が良かった (10)
- ・スポーツに対する興味が深まった (9)

<教授法に関するもの>

- ・視聴覚教材(VTR)を利用したことが授業の理解に役立った (46)
- ・配布資料が分かりやすかった (8)
- ・話が聞き取りやすかった (3)

=改善点,不満=

<授業内容に関するもの>

- ・授業内容として取り上げる事例を精選して欲しい (5)
- ・「グループディスカッション」が難しい (4)
- ・教育分野,健康分野に関するものを取り上げて欲しい (3)

<教授法に関するもの>

- ・学生に対する口頭注意が厳しすぎる (8)
- ・小レポートを書く時間が足りない (5)
- ・説明を簡潔にして欲しい (4)
- ・話が聞き取りにくい (3)
- ・小レポートに対する返信が欲しい (2)

<教室環境,開設時限,履修区分に関するもの>

- ・モニターが小さいため,VTRの映像が見づらい (31)
- ・履修者数に対して教室の規模が小さい (4)
- ・開設時限に不満がある (4)
- ・必修の必要性を感じない (2)

3. 全体的な感想

評価は概ね良好であると言えよう。

教授法に関する不満や,教室環境に関する不満等,短期間で改善可能なものに関しては,早急に対処したいと考える。また,授業内容に関しては,好評なものについては継続し,不評なものについては部分的にリニューアルを行いたいと考える。

Ⅶ 相互評価 (Aクラス→Bクラス)

1. 自己点検・評価内容の特徴

ひとつひとつの設問に対して詳細な説明がなされていて、どのような取り組みをしているのかがわかりやすかった。

今回の点検・評価結果を受けた具体的な改善案も提示されている。

2. 優れている点

学生の出席率が高く、授業内容の理解度がきわめて良好であること。

ほぼ毎回授業内容にかかわる資料を配付していること。

話し方の工夫（ラジオ放送を参考にする）等について日常気をつけていること。

学生の授業に対する全体的な評価が高いこと。

3. 今後期待される点

現在の授業形態をおおきく変える必要はないと思われる。

自由記述に指摘のあった専門用語の説明、毎回の小レポートへの個別返信の問題と小レポートのための時間の確保等が次年度の具体的な課題といえる。

進路に役立つ授業内容という点では、「教育学分野」や「健康学分野」の導入が期待される。

4. 助 言

3の今後期待される点で指摘した個別返信へのアドバイスとして、3, 4回同じレポート用紙を使用することを検討してはどうでしょうか。(例：文学部のレポート用紙を4回授業で使用。前回の学生の意見にコメントを書いて渡すことができる。)

5. そ の 他

特になし。

VIII 事後評価（B→A）

1. 自己点検・評価内容の特徴

この種の学生評価については、評価実施後に教員が学生からの評価を真摯に受け止め、授業改善に役立てていく努力が必要であると感じる。学生評価を単なる診断的な評価に終わらせることなく、良い授業づくりの為の形成的な評価として活用したい。そのために、まず「具体的な改善案」を実施していきたい。

2. 優れている点

- ・「出席率が高い」のは、総合評価にしろ平常点のウェイトを60%に設定していることによるものと思われる。
- ・「資料作成」については、テキストを指定していないので、教員の為すべき当然の努力と考えている。
- ・「話し方」については、まだまだ工夫改善する必要があると感じている。
- ・最新的话题を提供し、高い評価が得られるように努力していきたい。

3. 今後期待される点

- ・ご指摘の内容を短期的課題と中・長期的課題とに整理し、授業改善に役立てたいと思う。
- ・専門用語の説明、小レポートへの個別返信、小レポート作成の為の時間確保等、来年度からさっそく改善していきたい。＜短期的課題＞
- ・授業内容に「教育学分野」や「健康学分野」を導入することについては、当該領域に関する情報収集を行いできるだけ早く導入するよう努力したい。授業回数には限りがあるので、これらを導入する場合、他の何を削るのかも難しい問題か？＜中・長期的課題＞

4. 助言

3,4回同じレポート用紙を使用することは、とても良い案なので、さっそく来年度から実施したいと思う。

5. その他

こうした一連の作業（授業評価、相互評価、事後評価）を行うタイミングは、次年度のシラバスを作成する前が適切であると感じた。

自己評価結果、相互評価結果、事後評価評価を総合的に考察すると、

- 1) A, B（クラス）ともに、学生自身の授業への取り組みでは、学生が高い評価をしているが「予習・復習」等については十分に取り組んでいないので、かなりの工夫が必要である。
- 2) 教員の授業の進め方や資料の内容については、A（クラス）では、進め方への不満は少ないが資料内容や資料の提示方法には工夫が必要である。
B（クラス）では、進め方、資料の内容や提示の仕方ともに評価が高い。
- 3) 教員の教授法や授業の取り組みについては、A（クラス）では熱意ある授業の雰囲気が高

く評価されているが、毎回完結型の内容に若干消化不良気味の学生の実態がみられる。

B（クラス）では、教授法や授業の取り組みにも細心の注意がはらわれていて、そのことが学生にも伝わっているようである。

4）授業の成果、全体的な満足度については、A（クラス）B（クラス）ともかなり評価が高い。この結果は、今回48名の専任が調査を希望して実施したことを考慮すれば当然の結果であるともいえる。今回の調査実施者は、日頃から授業に関心があり当然のことながら授業には熱心に取り組んでいると考えられるからである。

しかしながら数値データ（度数分布）にはあらわれにくい意見を自由記述欄でみると、少数とはいえ参考にすべき貴重な意見もでていたので、次年度にむけてさらなる授業の改善が求められる。

以上が、自己評価結果、相互評価結果、事後評価結果の総合的な考察である。

ま と め

今回の「学生による授業評価アンケート」結果に対する両クラスの自己評価は、ともに詳細に行われているといえる。そのことは、自己評価に対する相互評価結果からも明らかである。

2003年度大学基準協会は、国立大学に対して第三者評価といえる報告を行った。その評価委員の一人である館氏（学位授与機構）は、「詳細な自己評価結果に基づいて第三者評価ができるものだ。」と報告されていた。（2003年度大学教育学会課題研究集会於中京女子大学）

こうした指摘からもわかるように、まず授業担当者の詳細な自己評価が重要であるといえる。

そしてその評価を第三者と相互評価することによって、自己評価結果がより精選されていき、その後の授業改善に役立つ資料となる。このようなフローが考えられる。

今回試行的に実施した相互評価結果でも上記の傾向がみられることから、自己評価結果分析で終わらずに、できれば相互評価まで実施することが望まれる。

本研究の対象クラスでは、すでに次年度にむけた授業改善の取り組みが始められている。

「学生による授業評価アンケート」を実施する目的のひとつが、授業改善に役立てることにあるので、今回の調査結果の自己評価および相互評価は、かなりの成果があがることにつながったといえる。

今後の課題

今回の調査およびその評価結果の検討は、初歩的な取り組みであるといえる。それは、文学部においても「学生評価委員会」の第一回目の調査であったし、調査対象も希望者48名のクラスに限定されている。その意味では今回の調査はプリテストということもできる。調査項目の設問の配列や内容をさらに検討することも必要である。

しかし今回調査をしたクラスではこの結果を有効活用し、すぐにでも改善できる点については、次年度の授業内容に反映することができる。

今後は、2004年度実施予定のアンケート（全専任，兼任教員が対象）がさらに検討された内容で行われ、その結果より多くのクラスの授業改善がはかられることが望まれる。

参考文献

- 1) 奈良雅之他「大学保健体育科目の教育評価に関する研究—相互評価方法の検討を中心に—」第54回日本体育学会（熊本大学）大会号，2003
- 2) 西野園晴夫他「授業評価の現状と今後の課題」2000年度「第6回FDフォーラム報告集」京都産業大学，コンソーシアム京都
- 3) 田中毎実他「教育評価による教員と学生のスクラム」2002年度「第8回FDフォーラム—学びのスクラム—資料集」立命館大学，コンソーシアム京都
- 4) 森 正明「中央大学における保健体育のFD（ファカルティ・ディベロップメント）に関する研究」保健体育研究所紀要第14号，57-85（1996）
- 5) 森 正明「中央大学における自己点検・自己評価の現状と課題—鳴門教育大学を視察して—」保健体育研究所紀要第18号，111-120（2000）
- 6) 森 正明「東洋体育授業に関する研究（その2）—東洋体育授業の位置づけと【点検・評価】問題の再考の視点から」保健体育研究所紀要第19号，35-48（2001）

(資料-1)

文学部学生による授業評価アンケート

整理番号 一

このアンケートは、授業担当教員の了解を得て、文学部として試行的に実施するものです。集計結果は、授業改善のための資料として活用されるとともに、今後みなさんの主体的な授業参加を促すことをねらいとしています。

無記名の調査であり、この授業の成績評価に影響するものではありません。

ご協力の程よろしくお願ひします。

2003年7月 文学部長

I あなた自身について

0. あなたの学籍番号の上5桁(学科・専攻まで)を教えてください

回答欄

--	--	--	--	--

1. あなたはこの授業にどのくらい出席していましたか

- ①全て出席した ②1～2回欠席した ③3～4回欠席した ④5回以上欠席した

1.

2. あなたはこの授業の予習・復習等、必要な準備をしましたか

- ①充分した ②まあまあした ③あまりしなかった ④全くしなかった

2.

3. あなたはこの授業の内容をよく理解できましたか

- ①たいへんよく理解できた ②まあまあ理解できた ③あまり理解できなかった
④全く理解できなかった

3.

4. あなた自身でこの授業の取り組みについて自己採点すると

- ①たいへんよい ②まあまあよい ③あまりよくない ④全くよくない

4.

II 授業内容について

5. この授業は講義要項にそって進行していましたか

- ①ほとんどそっていた ②だいたいそっていた ③あまりそっていなかった
④全くそっていなかった

5.

6. この授業は理解が深まるよう工夫されていましたか

- ①たいへんよく工夫されていた ②まあまあ工夫されていた
③あまり工夫されていなかった ④全くされていなかった

6.

7. この授業の開始・終了時間は守られていましたか

- ①毎回時間通り守られていた ②だいたい時間通り守られていた
③あまり時間通り守られなかった ④全く時間通り守られなかった

7.

8. この授業のテキスト・配付資料は役に立ちましたか

- ①たいへん役に立った ②まあまあ役に立った ③あまり役に立たなかった
④全く役に立たなかった

8.

(資料-2)〈学生の小レポート〉

テーマ「障害者とスポーツ」

キーワード

- ・ノーマライゼーション
- ・クラス分け
- ・スポーツ行政
- ・レジャー／競技／リハビリ

チェアスキー選手の山口さんや高村さんを見て、全く障害者であることを感じなかった。自分達と同じ何も不自由のない人に見えた。ただ、スポーツをする選手、という風にしか見えなかった。今のチェアスキーの形になるまでにはいろんな悪戦苦闘があったのだと思った。一番はじめのスキー台はサーフボードのようなものにイスを乗せただけというスキー台でびっくりした。乗って見ないと安全性、機能がわからないし、障害者の立場で障害のない人がつくるわけだから大変だったと思う。誰かが乗って犠牲にならないとどこが悪いのかわからないかも知れなかったし。選手が事故を起こすことなく普通のスキーと同じ感覚で滑れるのはいろんな影で活躍をしている人々のおかげだ、と思った。それからチェアスキーは体力や選手の能力に加えて、スキー台の機能の優劣にもかかっていると思った。それには様々な人々の知恵と技術がほどこされているから。スキー台の善し悪しで勝敗が決まるといってもいいくらい、普通のスキーは選手の体調が第一の心配になるが、チェアスキーの場合はそれがスキー台になるような気がする。だからチェアスキーはスポーツであるけれど体力よりもむしろ頭を使うスポーツだと思った。

パラリンピックも、オリンピックも、そこに参加する選手やスタッフの気持ちは同じなんだと思った。先生が言ってたとおり、あまりTVとかで取り上げないから、パラリンピックに関してわからないことばかりだったが、オリンピックと同じように考えていいのだと思った。

それなのに全日本のユニフォームを着られなかったり、メディアが取り上げなかったりで、差別感がすごくあるように思われる。「障害者の認知、教育、理解の場」にしたいのに、こんな差別があるのでは認知も理解もないと思う。

話の焦点がずれると思うが、スポーツができない重度の障害者もいるということを忘れてはいけないと思う。

スポーツは心身の健康を維持する上で非常に重要な役割を担っているということを再認識した。障害を持ってしまったことはとてもつらいことだと思う。けれど、それにめげることなく、スポーツに熱心に取り組む姿勢からは学ぶべきところが数多くあった。パラリンピックが人々にもっと広く認知されてゆけば、身障者に対する偏見が改善されてゆくのではないかと思う。身体的な障害だけでなく、金銭的や設備に関する問題など数々が山積みになっていると思う。それらの諸問題を解決してゆくためには、健常者達の方が不可欠だと思う。

パラリンピックというのは今まで何度も耳にしていたし、身体障害者のスポーツ大会でしかないと思っていた僕の思いを今日のビデオが変えてくれました。

パラリンピックの開会式、競技を見たとき、普通のオリンピックと全然変わらないじゃないかって思いました。ケガを負っても夢をすてずに頑張っている人の姿がとても輝いていました。僕たちは何の不自由もない一般人です。僕たちが夢をすて、あきらめることは彼ら身体障害者にとっても申し訳ないと思います。

山口さんたちのように、明るく前向きな人間になりたいと思いました。オリンピックでは、原田選手とかが目立っていますが、山口さんたちのように、パラリンピックで頑張っている人もいることを知りました。これからは、オリンピックだけでなく、パラリンピックにも注目してみたいと思います。今日のビデオはとても感動したし、興味深いものでした。

パラリンピックに出場する人達は本当にすごいと思います。僕はテレビで少ししか見なかったけど、それぞれみんな目が輝いていました。身体が不自由になっても、そこからこまではい上がってくるなんて、今の自分を恥ずかしく思うくらい感心してしまいます。パラリンピックは何回見ても飽きないです。この人達を見ているとなぜか気合いが入って「よしっ」という気持ちになってきます。

回転種目のボールがあんなに堅いものだとは思いませんでした。ビデオであのアザを見て驚きました。

障害者というのは基本的にはスポーツと程遠いものであるという感覚があるが、そんな中で、パラリンピックというものは、障害者を勇気づける重要な要素であると思う。また、障害者の「普通の人よりも世界がせまくなっている」という感を吹飛ばすようなものとなり、スポーツに打ち込むことによって、それが人生の財産となることはとてもすばらしいと思う。スポーツは人々の人生の目標になりやすいものであるので、今後とも障害者のスポーツ支援に力を入れてほしいと思った。

(資料-3)

〈A (クラス) 2003年度「健康・スポーツの科学」(講義内容)〉

- 1回目 4月14日 ガイダンス (大学における体育の役割, 新制大学の歴史等, 2名の教員のどちらかを選択して履修登録を行う)
- 2回目 4月21日 体育とスポーツを考える
(明治以降の近代国家建設と共に入ってきたスポーツと教育として行われてきた体育の定義等について考える)
- 3回目 4月28日 ルールについて考える
(1956年に回転槍投げが禁止になった事例やサッカーからラグビー, ラグビーからアメリカンフットボールへの変遷について, 文化伝播の視点から考える)
- ※ 「パラリンピック」「身障者スポーツ」についての課題レポート配付
- 4回目 5月12日 オリンピックについて考える (1)
歴史と課題 (スポーツビジネス)
- 5回目 5月29日 オリンピックについて考える (2)
(プロ・アマ問題, アマチュア憲章とスポーツ憲章について)
- 6回目 5月26日 パラリンピック (1998長野) について考える
(身障者スポーツとパラリンピックの歴史, ボランティアの関わり等)
- 7回目 6月2日 パラリンピック (夏期) とスペシャルオリンピック (知的障害者のオリンピック) について考える
(福祉スポーツ<厚生労働省>と競技スポーツ<文部科学省>の管轄の違いなど, スポーツ行政について考える)
- 8回目 6月9日 相撲部屋の社会システムについて考える
(江戸中期に始まった最も古いプロスポーツ相撲が, 実力主義の近代的な養成システムをもっていること, 相撲界のマネジメントを考える)
- 9回目 6月16日 スポーツ組織について考える
(大リーグと日本のプロ野球組織の違い, 巨人主義と甲子園至上主義にメスをいれる等)
- 10回目 6月23日 スポーツ空間論を考える
(練習や試合を行う「コートの中」の外側に「コートの外」という空間 (更衣室, クラブハウス, シャワールーム等) があり, この空間が, 「コートの中」の成果をあげる要因になっている)
- 11回目 6月30日 祭りとスポーツ
(明治時代以降に日本に移入されたスポーツの組織には, 日本の伝統的な祭りの組織に通じる形態が存在していたのではないかとという仮説を立てて検証)

※ まとめレポート (本授業の点検・評価)

(資料-4)

〈B (クラス) 2003年度シラバス〉

昼

「体育と健康の科学 (講義)」(2001年度以前入学)

「健康・スポーツ科学 (講義)」(2002年度以降入学)

テーマ:

スポーツの諸問題に関するリテラシー育成

授業概要・内容:

体育・スポーツをめぐるさまざまな問題について理解することにより、スポーツ (スポーツという文化) のもつ普遍的な価値を見出し、それらを志向する動機づけの一助とすることを目的とする。

授業スケジュール

- 1 ガイダンス
- 2 競技スポーツと野外スポーツ
- 3 スポーツと人種問題
- 4 スポーツとナショナリズム
- 5 グループディスカッション①
- 6 身障者とスポーツ
- 7 スポーツルールとスポーツモラル
- 8 環境問題とスポーツ
- 9 グループディスカッション②
- 10 映像文化とスポーツ①
- 11 映像文化とスポーツ②
- 12 古代オリンピックと近代オリンピック
- 13 期末評価

授業形態:

講義形式—ビデオ教材を視聴した後、解説、問題点等の整理を行う。

成績評価の方法・課題:

〈課題〉授業時間内に毎週、小レポート (ふりかえり) を提出してもらう。

〈成績評価の方法〉小レポート60%, 期末評価40%

テキスト・参考書:

- 〈参考書〉山際淳司『みんな山が大好きだった』(中公文庫)
ニコラス・オコネル『ビヨンド・リスク』(山と溪谷社)
ジャッキー・ロビンソン『黒人初の大リーガー』(ベースボールマガジン社)
沢木耕太郎『オリンピアン—ナチスの森で—』(集英社)
中村敏雄『スポーツルールの社会学』(朝日選書)
中村敏雄『スポーツの風土』(大修館)
森川貞夫編『スポーツ社会学特講』(大修館)

その他:

〈履修者への要望〉グループディスカッションの時間を設定するので、積極的に他の学生と意見交換する機会にして欲しい。